

12/25(土)まじど!倫理号が、Xリークリスマス、今年も残り所僅かとなりまわ、
春先後始末、されてるでしょうか? 取合へずは、大掃除など
やってあげよう。

今週の

倫理

12月のテーマ | 後始末

幸せ海に飛鳥

2021. 12. 25~12. 31

1261号

今月のテーマは、「後始末」の実践です。倫理運動の創始者・丸山敏雄は、著書『実践倫理学大系』の中で、「慎終」の要件について挙げています。経営者にとつて、「心残りをなくしておくこと」は、昨今の情勢の中で、自身の覚悟を決めさせてくれる希望の言葉となるのではないのでしょうか。

令和二年の年明け早々、感染症の広がりによって、日本国内に留まらず全世界の様相が一変しました。経済活動が麻痺状態に陥り、特に飲食業界においては、大打撃を受けたというところも少なくありませんでした。

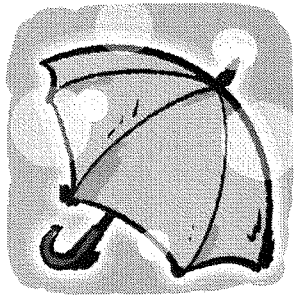
コロナ禍が始まった昨年二月、A市で飲食店を開業したS氏は、苦しい境遇にありました。そこで長く付き合いのある倫理法人会の会員であるH氏に、今後の事業をどう展開するべきか相談を持ち掛けたのです。

開店パーティーを開催した際には、およそ二百名のお客様が、お祝いに駆けつけてくれました。ところが、開店一カ月を過ぎた頃には、コロナ禍の影響をまじまじと受けて、売上が激減してしまつたのです。

H氏からは、「国や県の要請で、店の営業ができない期間は、後始末の実践、具体的には、整理・整頓・清掃の実践に取り組みなさい」とのアドバイスがありました。

H氏も過去に飲食店を経営していたことがあり、このアドバイスには、体験に基づいた裏付けがありました。

とはいえ、S氏は自宅にいても心が休まる時がなく、店を離れることもできません。



後始末はいつでも 取り組める最高の実践

できる限り店に顔を出し、店内のフロアー、化粧室、厨房はもちろん、ビルの共用部分のエレベーター内、踊り場、入口付近の清掃を徹底的に取り組むことにしました。

また、開店パーティーに駆けつけてくれたお客様に、ハガキや電話で感謝を伝えたところ、「お店が再開した際には、ぜひ伺わせていただきます」と多くのお客様から励ましの言葉を頂いたのです。

厳しい状況下で開業し、何度も営業再開と自粛の繰り返しでしたが、県からの給付金と補助を受け、苦しいながらも店を維持することができています。

H氏はS氏に、「仕事面でもためになり、自身の生活にあてはめて、実行すれば、良い結果につながるよ」と『万人幸福の葉』の次の項目を読むことを勧めました。

あと片づけをせず、使った道具の手入れをせず、靴を揃えぬ、傘のしずくを乾かさぬ、こうした事は身のたしなみとしての単なる作法だとか、行儀とかと心得ているのが、これまでの考えであるが、これを忘れることが、いろいろの不幸の原因(もと)となるのである

『万人幸福の葉』

S氏は、この文章を精読することで、(休業中でも、営業できる状況にしておくことが大切だ)と実感したといいます。たとえ営業できない状況でも、営業再開した際、店内の整理・整頓・清掃等のいわゆる後始末を徹底していくことが、(後々のお客様の喜びに通じるのだ)と確信するS氏は、更なる学びと実践を続けたのです。